



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二八二号〜

白露はくろ

九月八日

松井孫右衛門供養祭

今年は、どうやら台風の当たり年。すでに台風は二十一号を数え、この地方にも激しい風雨をもたらしています。

俳句の季語では、台風などによる洪水を「秋出水あきみず」といいます。夏の梅雨出水は単に「出水」、融雪期は「春出水」としますが、被害の大きいのは、やはり「秋出水」です。

伊勢は、宮川の「出水」に悩まされてきました。江戸時代は堤防の築堤や修復をたびたび行っており、古地図によると、現在の宮川堤公園には周防守すわうもり様御代堤、駿河守様御代堤、浅間堤などの堤が築かれていました。周防守、駿河守は、山田奉行の名前です。浅間堤には江戸時代、自ら人柱となって、堤を守った偉人の供養碑が立ちます。松井孫右衛門まごえもんです。

孫右衛門は、宮川右岸の中島町の人で、洪水の惨状を見かねて、検分にきた役人に「最も貧しい身なりの者を人柱にしてはどうか」と提案し、自らになったという逸話を残します。

八月二十五日は、供養祭があると聞き、行ってきました。夕方四時、二十人ほどが集まり、供養をされていました。供養碑のその傍らには山口誓子の句碑が立ちます。

孫右衛門西向き花のこゝ浄土 山口誓子

誓子は、供養碑が極楽浄土じやうどのある西を向いて立つと詠みました。西には宮川の水源である大台ヶ原がそびえます。孫右衛門は三百五十年あまりを経て、宮川の水源を見つめ、出水から伊勢を守っているように思えました。この秋の出水がないことを祈らずにいられません。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 第24回おかげ横丁 来る福招き猫まつり

今年も全国から様々な招き猫を集めた「来る福招き猫まつり」を開催いたします。

今年のテーマは…

「平成の招き猫 集まれ！」

平成の時代が終わろうとしています。

そんな節目の年のおまつりには時代を物語るような招き猫に集まってもらいたいと思います。みんなが未来に残したいレジェンドたちにどうぞ会いにきてください

と き／9月15日(土)～9月30日(日)

9:29～17:29 (催しにより異なる)

ところ／おかげ横丁一帯

※諸事情により、内容が一部変更または中止になる場合もございます。

● 招き猫現代作家展

招き猫は、江戸末期に日本で誕生し、現在では国内外で親しまれ個性あふれる作品として表現されるようになりました。そんな中から「吉兆招福亭」が選抜した招き猫作家15名が揃います。

ところ／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

出展作家(予定)／天野千恵美／有田ひろみ・ちゃぼ／石渡いくよ／

小澤康磨／小出信久／櫻井魔己子／佐山泰弘／松風直美／

鈴木通夫／蟬丸／西岡良和／平林義教・利依子／細山田匡宏／

水谷満／もりわじん

<五十音順・敬称略>

五十鈴塾

○ 松平定信と伊勢参宮

松平定信は寛政の改革を主導した老中として知られています。定信は江戸幕府八代将軍徳川吉宗の孫(御三卿・田安宗武の子)として生まれ、また陸奥白河藩主・松平定邦の婿養子となった人物です。今でも白河(福島県白河市)では名君として慕われています。定信と伊勢とのかかわりですが、息子の定永が文政6年に白河から桑名へ移封となったことにより、齒と装束を収めた墓がある桑名の照源寺や、定信を祀った旧桑名城内の鎮國守國神社などゆかりの地が残されており、実際に伊勢にも来訪しています。京都での大火で多くの建物が焼失し、御所の再建を実施すべく定信は上洛したおり、京での政務がひと段落し江戸への帰国途上、伊勢神宮に参拝するのです。

当代一流の文化人として知られた松平定信の眼を通して、江戸時代の参宮および伊勢路の様子を紹介します。

と き／9月12日(水) 13:30～15:00

講師／杉本 竜(桑名市博物館館長)

参加料／一般1,400円 会員900円

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

はき
菽

道明寺入りの葛で白餡を包み、秋風に揺れながら花びらに露を抱く、菽の姿を表現しました。

みのり

ういろ生地で柿餡を包み、蓮台寺柿独特の角張った姿に似せました。ひと足早い伊勢の秋の實りをどうぞご賞味ください。

げつと
月兎

こし餡を包んだ道明寺生地に氷餅をまぶし、下界にぴょんと降り立った、白い月兎に見立てました。